令和５年度　浅草小学校授業改善推進プラン

第２学年

1　浅草小探究モデルにおける児童の実態

Ⅰつかむ、見通す	A 課題作り	提示した課題に対して、意欲的に取り組んでいる。自分で課題を見付けることに慣れていない。学級全体で教師と共に課題作りを行い、課題の作り方を学習している。
	B 学習計画を立てる	自分の思いや願いを発言できる児童が多い。一方で、自分たちの課題を解決するために、学習の見通しをもてる児童は少ない。
Ⅱ考える、つなげる	A 自分の考えをもつ	自分の考えを話すことには積極的だが、言葉で書き表すことに苦手意識をもつ児童が見られる。
	B 他者の考えを知り関連付ける	自分が考えたことや気付いたことについて、少人数のグループで発表することができる。一方で、友達の考えを聞いて自分の考えを深めている様子が見られることは少ない。教師が助言をすることで、共通点や相違点に気付くことができる。
Ⅲ創る、活かす	A まとめる振り返る	振り返りやまとめの表現の仕方を学習している。授業の振り返りから次時のめあてをもつ等、学級全体で行っている。
	B 活かす	これまでの学習を活かし、自発的に新たな問いをもったり、課題を設定したりできる児童は少数である。

2　目指す児童の姿

①学びに取り組む姿	②対話の姿	③探究する姿
学習に対して課題意識をもち、意欲的に取り組む。	友達の考えを聴き、自分の考えを伝え、よさを見付ける。	自己の学びを振り返り、次の学びに活かそうとする。

3　授業改善に向けての具体的な方策

Ⅰつかむ、見通す	A 課題作り	児童が互いの気付きや疑問を共感的に聞き合い、問いを生み出しやすい学級風土を醸成する。思考ツールを活用して整理したり分類したりすることによって、課題を明確にしていく。
	B 学習計画を立てる	Ⅰ-Aで設定された課題を共有し、授業の中に解決のための方法の見通しやゴールのイメージを考える場面を意図的に設定する。
Ⅱ考える、つなげる	A 自分の考えをもつ	各教科とも、授業の中に自分の考えを書き表す活動を意図的に位置付け、書くことを習慣付けていく。言葉で表すことに難しさがある児童には、まずは、絵や図で表し、徐々に短い言葉に置き換えられるように助言していく。
	B 他者の考えを知り関連付ける	学級全体やグループで共有した互いの考えを、自分と比較したりよさを見付けたりする活動を意図的に設定する。特に、一人一台端末（スカイメニューアプリ）を活用した方法に重点を置く。
Ⅲ創る、活かす	A まとめる振り返る	学習の振り返りの際は、分かったことやできるようになったことだけでなく、学習の仕方や友達のよさ、新たな問いも価値付けられるように助言する。
	B 活かす	学習の振り返りを次時に向けて学習を連続させたり発展させたりできるように、次時への視点を提示していく。 （例：次にやってみたいこと　調べてみたいこと等）